長島町における異分野融合による シビックプライド醸成に資する実践研究

田中　尚人[1]・中田　晴彦[2]・森　敬介[3]

[1]熊本大学 熊本創生推進機構 准教授

[2]熊本大学 自然科学研究科 准教授

[3]ひのくにベントス研究所 所長

本研究では，異分野の専門家が協働し，地域に住まう子ども達のシビックプライド涵養に資するアクションリサーチを行った．具体的には鹿児島県出水郡長島町にて，地域づくりをテーマとした地域住民や若者が参加するワークショップと，小学生を対象とした「ベントスとプラスチックごみの調査」自然環境に関するワークショップを行った．地域づくりＷＳは，自分ごととして地方創生を捉え，自らの専門性を基盤とした地域学習の素材探しを行うことができた．自然環境に関するＷＳでは，ベントスやプラスチックごみなど，子ども達が身近な，ふるさとの自然の知っているようで知らなかったことを，再発見することで，シビックプライドの基盤が形成されたように感じた．ふるさとの風景を構成している自然・社会環境の成り立ちを知ることは，地域に対する愛着や誇り，自負を醸成することにつながる．

1．はじめに

本研究では，異分野の専門家が協働[1)]し，学生たちとともに地域に住まう子ども達のシビックプライド涵養に資するアクションリサーチを行った．具体的には，鹿児島県出水郡長島町をフィールドに，工学部に属しワークショップなどにおける人々の態度行動変容などを研究する社会科学的なアプローチの田中と，理学部に属し自然環境中の毒性物質などの化学分析・研究を専門とする中田，同じくベントス（Benthos）という水域の底質に生息する底生生物研究を専門とする森が協働し，表-1に示した長島町の子ども達がふるさとの自然・社会環境を知るワークショップを行った．

ワークショップには，長島町や近隣の子ども達が参加したほか，長島町役場，長島町地域おこし協力隊，地域住民の方々の参加もあり，多様なステークホルダーが参加したといえる．本研究では，伊藤らが提唱しているシビックプライド[2)]を，「市民が地域や都市に対して持つ，愛着やほこり，自負」と定義して，近年小学校教育等に導入されつつあるアクティブラーニング[3)]において重要視されている公民的資質，「生きる力」であると考えている．

表-1　関連ワークショップの一覧表

	日時	場所	名称	参加者	種別
1	2018.3.7（水）15-18時	長島町役場指江庁舎大ホール	長島町の未来を考えるワークショップ	21人	地域づくり
2	2018.7.22（日）11-16時	小浜海岸＋長島町役場Ｎセンター	ベントス＆マイクロプラスチックごみ調査	19人	自然環境
3	2018.8.25（土）12-17時	小浜海岸＋長島町役場Ｎセンター	ベントス＆マイクロプラスチックごみ調査	21人	自然環境
4	2019.8.12（月）15-17時	長島町指江『あさひや』	長島大陸情熱大学ワークショップ	13人	地域づくり
5	2019.8.13（火）12-17時	小浜海岸＋『あさひや』	ベントス＆マイクロプラスチックごみ調査	26人	自然環境

2．長島町における地域学習[4)]

(1)　長島町の概要

長島町郷土史[5)]・東町郷土史[6)]の情報を中心に長島町の概要を整理した．長島町は鹿児島県出水郡にある長島本島，伊唐島，獅子島，諸浦島の4島と大小23の島々からなる地域である（図-1）．八代海に面しており東経130度10分，北緯32度11分に位置する．その総面積は116.12平方キロメートルである．

長島町は，比較的温暖な海洋性気候で，粘土質の赤色土という自然の特性を有し，それらを活かした野菜・果樹，畜産などの振興や，様々な魚介・海藻類の採取・養殖漁業が盛んである．

漁業に関しては，長島本島の西側では東シナ海に面しており漁船漁業，採草漁業が盛んに行われている．一方で東側は，八代海に面し入江が多く魚類養殖が多く営まれている．また，長島町は単一漁業協同組合において養殖ブリの生産量で日本一を誇り，日本国内の90％を占めている．さらに「鰤王」ブランドでヨーロッパにも輸出しており，世界の鰤の7％を占めている．

農業に関しては，九州で有数の生産量を誇るじゃがいも「赤土バレイショ」や，温州みかん発祥の地として知られており，甘夏やデコポンの栽培が盛んである．

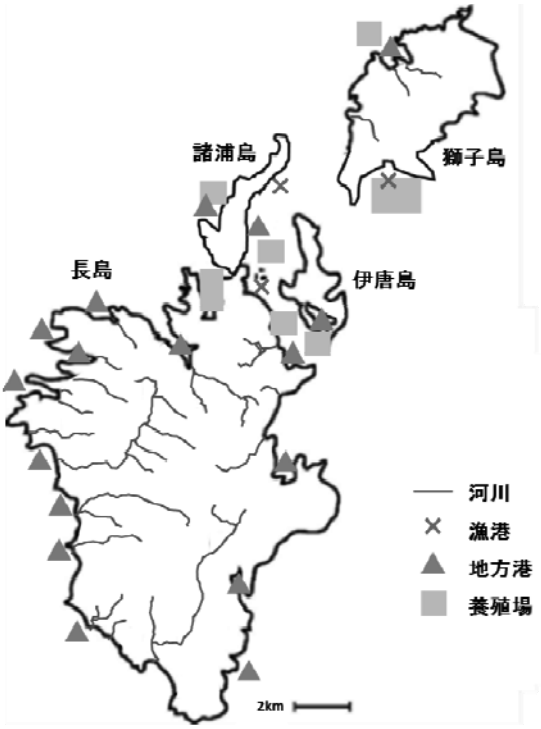

図-1　長島町の地形概要

図-2のように，長島町の総世帯数は約4,400世帯と50年間でほとんど変化がみられない．一方，総人口は昭和35年は21,179人であったが，平成22年には11,105人と約半数となっていることが分かる．これは，少子高齢化や島外への人口流出の影響であるといわれている．

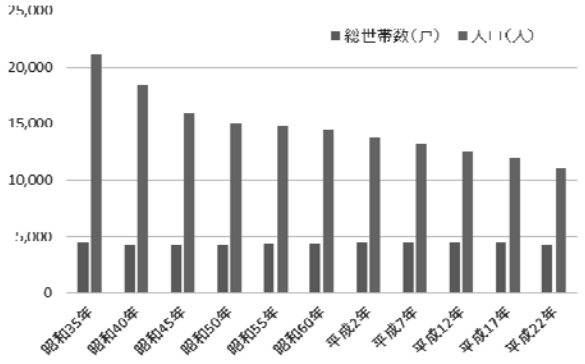

図-2　長島町の人口・世帯推移

(2)　長島町の地方創生と小学校教育

平成18年3月20日に東側の旧東町と西側の旧長島町が対等合併し，新長島町となった．合併した現在でも東西それぞれに町役場が支所として残っている．

平成19年3月31日に長島町は，町内唯一の高校である鹿児島県立長島高等学校が，阿久根・長島地域高校再編実施計画により廃校になったことに伴い，高校生が島外へ進学するようになった．この計画では，阿久根高校・阿久根農業高校・長島高校の3高校が統廃合し，阿久根農業高校の敷地に新設校として2005年度に鹿児島県立鶴翔高等学校が開校された．

図-3に，長島町の小学校・集落・主要道路・河川の位置を重ねて示し，それぞれの集落の名称を表-2に示した．集落の番号については，図-3と表-2で対応させた．

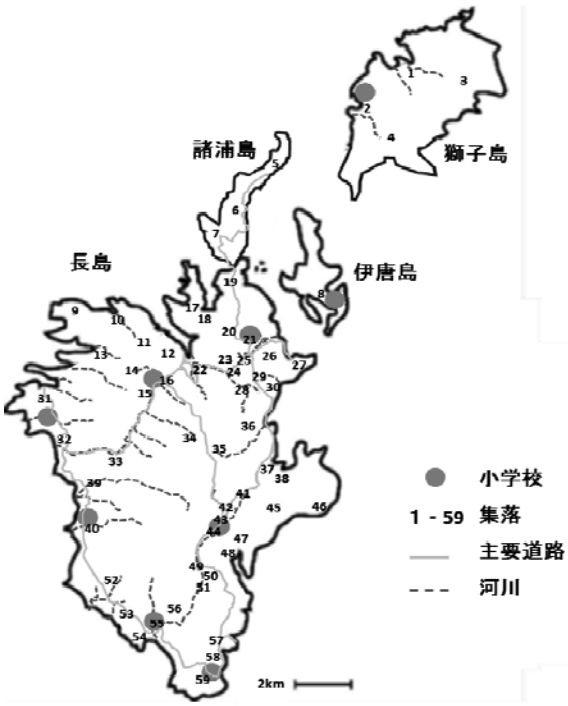

表-2　長島町の集落名称

番号	集落名	番号	集落名	番号	集落名	番号	集落名
1	御所ノ浦	16	母良木	31	蔵之元	46	市来崎
2	片側	17	三船	32	小浜	47	梅ノ木山
3	湯ノ口	18	桂代	33	川内	48	加世堂
4	幣串	19	薄井	34	犬鹿倉	49	山門野上
5	葛輪	20	矢堂	35	杉ノ段	50	山門野中
6	本浦	21	西	36	赤崎	51	山門野下
7	白瀬	22	浦底	37	塩追	52	唐隈
8	伊唐	23	団地	38	脇崎	53	広野
9	北方崎	24	山中	39	指江	54	潟
10	茅屋	25	本町	40	城川内	55	汐見
11	藤之元	26	菅牟田	41	小坂	56	馬込
12	福ノ浦	27	宮ノ浦	42	川床上	57	火ノ浦
13	浜漉	28	山寺	43	川床中	58	田尻東
14	萩之牟礼	29	上場	44	川床下	59	田尻西
15	平尾中南	30	野中	45	牧		

【小学校名（北から）】

①獅子島　②伊唐　③鷹巣
④平尾　⑤蔵之元　⑥城川内
⑦川床　⑧汐見　⑨田尻

図-3　長島町の集落・主要道路・河川の位置

長島町における河川は，西側の赤線で囲んだ範囲に多く見られることが分かる．また，この範囲では水田が発達しており，31番の集落名に蔵が使われていることから，米が主力であったことが推察された．また，集落と河川に着目することで，それらの位置の多くが重なっており，河川と集落との間に関係性があることが読み取れた．特に13から16番，41から44番，49から51番，55番と56番の集落と河川名が重なっている．次に主要道路に着目すると，長島本島の小学校は主要道路に面して立地していることが分かる．また，学校周辺の多くの集落の間は国道や県道など主要道路が通っており，交通の便が良い特徴がみられた．

(3)　長島町の小学校における地域学習の現状

平成28年10月から12月にかけて，長島町立の9校の小学校の地域学習に関するアン

ケート調査とヒアリング調査を行い，表-3に各小学校で活用されている地域資源について整理した．地域学習に用いられている地域資源にはやや偏りが見られた．

近年，長島町でも小学校の存続が危ぶまれるようになり，より一層地域学習や地域資源の活用が注目されている．本研究では，このような状況におかれている長島町の主に小学生を対象に，シビックプライド涵養に資する地域学習を実践した．

表-3　各小学校における地域学習に用いられる地域資源とその分類

番号	学校名	地域学習の内容	教材：具体的な地域資源	児童と関わる地域資源の分類					
				歴史	文化	伝統	地勢	産業	人材
1	平尾	種子島踊りの踊りと歌と衣装の着付けを種子島踊り保存会員から教わる.	種子島踊り			○			○
2	平尾	歴史民俗資料館に行き、古墳について学習.	古墳	○					
3	平尾	5、6年生が長島検定を受けるため長島町について学習.	全般	○	○	○	○	○	
4	伊唐 平尾	漁港で漁協の協力のもと鰤の養殖について学習	鰤の養殖					○	○
5	平尾	近隣の商店街にインタビューを行う	商店街					○	○
6	獅子島	竹太鼓の踊りと歌の指導をしてもらう	竹太鼓			○			○
7	鷹巣	昨年統合した本浦小学校の校区民との交流として七夕を協同で行う.							○
8	鷹巣	長島町のリーフレットを作成するために，長島町について調査し，故郷の魅力を再認識する.	全般	○	○	○	○	○	
9	鷹巣	長崎への修学旅行にて，作成したリーフレットを県外の人や，外国の人に渡し，地域の良さを伝える.							○
10	複数	地元の人材に作業工程を指導してもらい，じゃがいもや米を栽培・収穫する. 川床・城川内・伊唐・蔵之元など.	米 じゃがいも					○	○
11	田尻	田尻付近のみ飛来する蝶であるアサギマダラにマーキングを行った後，放ち再来するのを待つ.	アサギマダラ			○			
12	田尻	マンダリンセンターを訪れ，温州みかんについて学習する	温州みかん		○			○	
13	田尻	棒踊りの踊り方を棒踊り保存会の方に週3回程度指導してもらう.	棒踊り			○			○
14	複数	年に2回程度，他校の児童と合同で授業を行い，集団生活を送る交流学習を行う. 田尻・汐見・城川内の3校，伊唐・鷹巣・獅子島の3校.							○
15	汐見	樽太鼓を指導してもらい，敬老会，3か所の老人ホームで演奏. また，ご八日踊りで神社に奉納.	樽太鼓			○			○
16	汐見	高齢者とゲートボールや、肩もみなどのふれあい活動を行う.							○
17	汐見	地元の方に講義をしていただき，校区内調査を行う.	全般	○	○	○	○	○	○
18	汐見	高齢者宅訪問を行い，お話をする.							○
19	城川内	お年寄りに昔遊びを教えてもらう.			○				○
20	城川内	保護者や支援隊と合同で，磯遊びを行い，魚取りをしたりする.	磯				○		○
21	伊唐	経験者から竹太鼓を指導してもらう. 練習後に町の音楽発表会，恵比寿祭にて発表.	竹太鼓			○			○
22	伊唐	鰤教室を行い，漁協・漁民会の方に鰤の調理法を教えてもらう	鰤の調理法		○			○	○
23	伊唐	鰤のえさかせ体験を行う.	鰤のえさかせ					○	○
24	伊唐	二浦遺跡の調査を行う	二浦遺跡		○				
25	伊唐	伊唐大橋の歴史調査	伊唐大橋	○					
26	蔵之元	棒踊りを練習し，蔵之元十五社神社のお祭りにて，大人も一緒に金踊りを行う.	棒踊り 金踊り			○			○
27	蔵之元	川にてカヌー・カッターの操縦技術を学ぶ. 最後には，町主催の大会に参加し，天草や島原の児童らと交流する.	カヌー カッター			○	○		○

3．地域づくりに関するワークショップ

(1)　長島町の未来を考えるワークショップ

日時：平成30年3月7日（水）15時～18時

場所：長島町役場指江庁舎大ホール

長島町役場，地域おこし協力隊の方々，長島町の地元高校生や若者，そして熊本大学4名，熊本県立大学大学生8名，福山市立大学2名の大学生・大学院生が，地方創生のための小さな拠点づくりのためのアイデアを提案するワークショップを開催した．

1）ワールドカフェWS「長島町の○と×」

4人か5人のグループをつくってもらい，全員で参加者の対話をうながす，ワールドカフェWSを行った．3回席替えを行い，各回とも，長島町の長所：○と課題や問題点：×を話し合ってもらい，長島町の特徴を共有した．

長島町の主な課題：×

①職業についての知識が乏しい

②PRが足りない

③若者の居場所が無い

④スーパーの閉店時間が早い

⑤若者の遊び場が無い

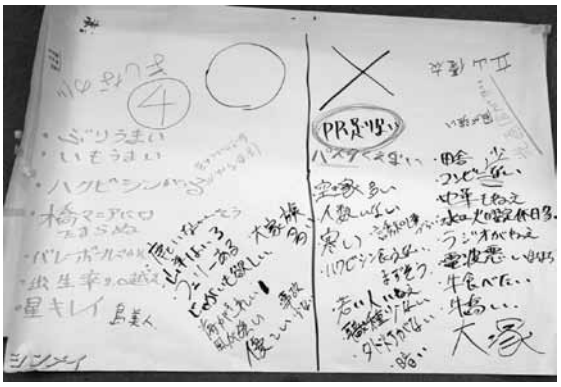

写真-1　ワールドカフェＷＳの成果

2）×を○に変える提案WS

その後，班内で意見を共有し，最も重要とする課題について×を○に変えるための提案を考え，各班で発表した．

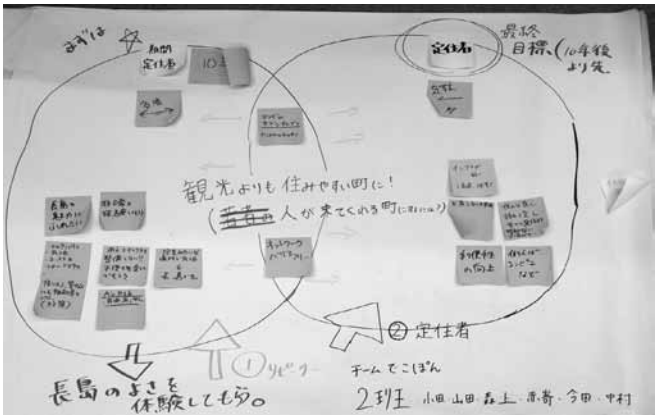

写真-2　提案案

写真-3　提案発表の風景

3）ワークショップのふりかえり

Q1．ワークショップでよかったことを，一つ教えてください

・これだけの人数の若い人が、町にくることがとても大事で良かったです！

・様々な（空家，まちづくり，海など）専門家の話を聞いたうえで，長島町の課題に着目し，課題策を考える作業が面白かったです．

・長島の地を踏んで，長島の事を知ることができた．

Q2．今後の長島町に期待すること，アイディアなどがあれば教えてください

・長島町のジャガイモが美味しいと聞いたので，是非アピールに取り組んで欲しい．

・有明海，八代海沿岸の地域のモデルとなることを期待する．

・島外の人が，もっと活躍できるようなシステムづくりを進めるのがいい．

(2)　長島町の地方創生を考えるワークショップ

日時：令和元年8月12日（月）15時～17時

場所：鹿児島県長島町指江 リノベ古民家『あさひや』

長島町地域おこし協力隊2名と，熊本大学の大学生・大学院生8名（工学部，理学部）が，地方創生のための小さな拠点として，リノベーションされた元旅館の古民家『あさひや』の活用方策を提案するワークショップを開催した．

写真-4　ワークショップの風景

写真-5　提案発表の風景

1）長島町の地方創生に関するワークショップ

長島町のまちづくりや『あさひや』の活用法について2班に分かれ，ワークショップを行った．お互いの班が考えた内容を共有し，これからの地方創生について重要な視点を共有した．

A班：何があったら地元に帰る？

①大好きな景色
②継続的に働ける仕事
③子供が育てられる場
④友人の集まれるコミュニティ

B班：『あさひや』活用法

①子供が気軽に集まる場
②海・川・森の写真館
③地域の多様な人達の憩いの場
④地域の魅力を語れる場

写真-6　Ａ班のＷＳの成果

写真-7　Ｂ班のＷＳの成果

2）ワークショップのふりかえり

Q1．長島町のまちづくりについて

・10年後には長島の問題だけでなく他の地域の未来も考える場所になっていて欲しい．
・何故，自分たちが「ふるさと」に帰らなかったのかを考えてみることが大切だと，「じぶんごと」として考えることが大切だと分かった．
・「仕事を自分でつくる」どういう働き方，起業してきたのかを知りたい．

・「長島ならでは」のストーリーが必要なのでは？
Q2．『あさひや』の活用法
・駄菓子屋的な場所や何かをつくる場になっていて欲しい．
・歴史をつなげる場や「指江」地域、あさひやのストーリーを人が語れる場所に．
・「〇〇の学校」や島で一つの部活の拠点に．
・「あさひや」を通して知り合いを増やすような集まり「島の同窓会」など．

(3) 異分野の学生たちが得た学びに関する考察

長島町において実施した2つのワークショップ，平成30年3月は，熊本大学工学部土木系，熊本県立大学公共政策学系，福山市立大学都市経営学部建築系，と3分野の学生たちが，令和元年8月は，熊本大学の工学部と理学部の2分野の学生たちが，長島町の地方創生に関するワークショップに参加した．

地方創生では，地域住民が基礎自治体と連携して行うチャレンジが求められており，学生たちの「よそ者」としてのポジティブな意見は，地域に対して地域資源の再評価や再発見や結びついたと考えられる．

また，学生たちの学びも，普段の単一の専門性の学生たちが参加しているワークショップよりも，幅広く，「自分とは違う専門を勉強している他者」としての認識があり，いつも以上に自分の専門性を考えたり，違う視点を共有できたようであった．

4．自然環境に関するワークショップ

(1) 2018年度のベントスとプラスチックごみの調査

日時：平成30年7月22日（日）11時～16時，8月25日（土）12時～17時
場所：小浜海岸（旧長島町側）長島町役場Nセンター

ベントス（底生生物）と生物内で有害性の物質に固着するマイクロプラスチックごみの参加型調査を7月と8月の大潮の時期に2回開催した．

1）7月22日（日）「専門家とともに海辺の生態系とプラスチックごみの調査」

8月に実施する親子調査のプレ調査として，その際にTAをしてくれる中学生・高校生と一緒に参加型調査を行った。

【参加者】地元中高生6名，大学生7名，大人6名　計19名
【実施内容】11:00～16:00
第1部　小浜海岸で生物採集・プラスチックごみの収集
第2部　採集した生物の観察・分類と講義（森先生）
第3部　マイクロプラスチックの説明（中田研大学院生）・ドローン空撮上映会
第4部　プラスチックごみを用いたアートづくりWS

2）8月25日（土）「親子で海辺の生き物とプラスチックごみの調査」

小学生・保護者を対象に，長島の海辺の生物やプラスチックごみの調査と観察を行

った．前回参加した中高生にはTAとして小学生のサポートをしてもらった．
【参加者】地元中高生8名，大学生5名，大人8名　計21名
【実施内容】12:00～17:00　※7月と同じ

写真-8　海岸でのベントス調査

写真-9　採集した生物の観察・分類

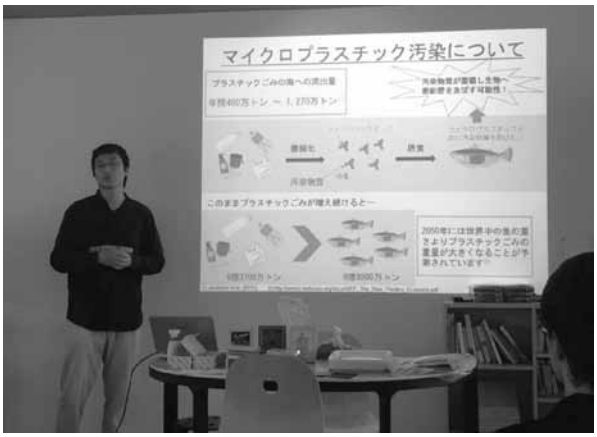

写真-10　マイクロプラスチックの説明

写真-11　プラごみを使ったアートづくり

写真-12　7月22日（日）集合写真

写真-13　8月25日（土）集合写真

3）2018年度ベントスとプラスチックごみ調査のふりかえり
Q1．ベントス調査で楽しかったことは何ですか？
・顕微鏡を使ったことと，プラごみで作品を作ったのが楽しかった。
・ヤドカリを観察しているうちに、愛らしさが出てきて、好きになりました。
・色んな生き物を見ることができて、楽しかったです。

・子供と一緒に参加できるイベントは、子供の成長がみれて楽しいです。
・子供たちと一緒に生き物を捕まえたり、プラごみで作品作りをしたり、
　親子で同じことをしながらじっくり過ごす時間を持てたことが楽しかったです。
・顕微鏡の画面に夢中になっている息子の様子や，作品作りに丁寧に取り組んで
　いた娘の様子を見て、参加して本当によかったと思いました。
Q2．WSで感じたことや思ったことを教えてください。
・笠貝の口を顕微鏡で初めて見て、かわいかった．拡大したらどう見えるんだろう？
・専門家の詳しい分析がとても面白かった．
・もっとたくさんの町内の小中学生に体験してほしいと思いました！熊大の先生や
　学生と接する機会にもなるし、興味が広がると思います！
・マイクロプラスチックの問題は，家庭内でできることから取り組みたい．

(2)　2019年度のベントスとプラスチックごみの調査

1）令和元年8月13日（火）
　「親子で専門家とともに海辺の生態系とプラスチックごみの調査」
【参加者】地元中高生6名，大人8名，大学生7名，教員3名，
　　長島地域おこし協力隊2名　計26名
【実施内容】12:00～17:00　※内容は，前年度と同じ

2）2019年度ベントスとプラスチックごみ調査のふりかえり
・長島町の地域特性を活かした学びの場を創出することができた・
・小中学生：自分の地域を知り、考えるきっかけとなった．
　課題について，自分の地域を通して学ぶことができた．
・大学生：地域の方々と交流を行うことで、多くの学びを得ることができた．
　シビックプライドの醸成における一つの有効な手段となる可能性を感じた．
・ワークショップを行う際に，地元の方々を巻き込む必要がある．
・地域の人の意見も共有することで，より地域の課題解決へつながるＷＳとなる．

5．おわりに

本研究では，長島町において異分野の学生や研究者が協働して行うワークショップを2種類実施した．地域づくりをテーマとした地域住民や若者が参加するWSでは，工学部土木系，公共政策学系，都市経営学部建築系，理学部の大学生・大学院生が参加した．もう一つの，小学生を対象とした「ベントスとプラスチックごみの調査」自然環境に関するWSでは，工学部と理学部の大学生や大学院生，研究者（土木史・景観論，毒性物質，ベントス）が参加した．

地域づくりをテーマとしたWSは，地方創生推進を掲げる長島町にとって有益な結果を提供できた．学生たちは単に「よそ者」として意見を述べるだけではなく，「自分ごと」として地方創生を捉え，自らの専門性を基盤とした地域学習の素材探し，ま

たその提案を行うきっかけを得た．

小学生を主な対象とした自然環境に関するWSでは，ベントスやプラスチックごみなど，子ども達が身近な，ふるさとの自然の知っているようで知らなかったことを，再発見することで，シビックプライドの基盤が形成されたように感じた．ふるさとの風景を構成している自然・社会環境の成り立ちを知ることは，地域に対する愛着や誇り，自負を醸成することにつながる．特に，親子でWSに参加されたご家族からは，親子ともにシビックプライドが醸成されていたことがうかがわれた．

謝辞：本研究は，くまもと水循環減災研究教育センターが受託した文科省特別研究「有明海・八代海の自然環境の再生・創生を目的とする総合的・実践的研究」の研究助成を受け，明石照久氏，白鳥薫氏をはじめ，長島町地域おこし協力隊，長島町役場や地域住民の皆様に，ご協力頂きました．記して感謝の意を表します．

参考文献

1) 長島町の地方創生事業におけるシビックプライドに関する研究－ベントス＆プラスチック調査を通して－，吉永敦音・田中尚人・中田晴彦・白鳥　薫・森　敬介，九州海洋生態談話会，2019.2.
2) 都市生活研究局（著）・伊藤香織・紫牟田伸子（監修），シビックプライド―都市のコミュニケーションをデザインする，読売広告社，2008.11.
3) 前田康裕，まんがで知る教師の学び２　アクティブラーニングとは何か，さくら社，2017.3.
4) 小田拓実，長島町における地域学習の役割に関する研究，熊本大学工学部社会環境工学科卒業論文，2017.2.
5) 長島町郷土史，1974.
6) 東町郷土史，1992.

（2020. 1. 14 受付）

ACTION RESEARCH FOR CIVIC PRIDE DEVELOPMENT IN NAGASHIMA TOWN ISLAND FORCUCING ON THE COLLABORATION BETWEEN DIFFERENT FIELDS

Naoto TANAKA, Haruhiko NAKATA and Keisuke MORI

This research is an action research which cultivate children's civic pride by the collaboration between different fields researchers and students in Nagashima Town Island. In this research, there are two type workshops in Nagashima Town, Kagoshima prefecture. One is for the local revitalization which should be discussed by young people and students. The other is for studying natural environment, such as benthos and plastic gust along the sea coast which should be studied by elementary school students. In the workshop for the local revitalization, student learned it is important for them to think about local revitalization as their own problem and picked up the resources for regional studies. In the workshop for the natural environment, the basement of civic pride developed by looking for again and evaluated the importance which is ordinary for themselves such as benthos and plastic traches. It will be connected to the sustainable civic pride development to understand local mechanism in Furusato socially and naturally.